

# 視覚支援の活用（5）

兵庫県立芦屋特別支援学校

平成30年12月 5日(水)

地支セン通信 No. 14

## ～音声指示だけではついていけない～

音声指示だけでついていけなくなると、大半の子が聴くことを諦めてしまいます

### こんな指示していませんか？

- ・国語の段落うちの時、「まず一行目が①、3行とばして『これは・・・』の上が②・・・」と音声だけで指示していませんか？
- ・算数プリントの答え合わせの時、先生が答えを読み上げ、児童生徒はその答えを聞いて丸付けをする活動ばかりではありませんか？

※音声指示がダメなのではなく、音声指示でどれだけ児童生徒が理解して動いているのかの実態把握をすることが必要です。その中で、側で言葉をかけたり指さして指示したりしなければならない児童生徒がいるのであれば、どんな活動なら自分から行動できるのかを試していくことが大切です。その一つが視覚支援です。

### こんな視覚支援を使ってみたら？

- ・実物投影機などでTVにうつす。
- ・拡大コピーを用意する。
- ・プリントを配る。

答えを記入したものを、  
様々な形で提示し、見比べ  
ながら記入したり、丸付け  
をしたりする。



### それにより得ること

- ・先生がフリーになり、机間巡視をする時間を確保することができる。
  - 困っている児童生徒の側でフォローアップすることができる。
  - 児童の観察する時間を増やすことができ、打つ手が増える。
- ・視覚に残るので、音声だけではついていけない児童生徒も自分で確認しながらすすめることができる。
- ・音声指示、視覚指示などを全体に指示しながら、その子がどの方法が得意なのか、苦手なのかなどの実態把握をしていく。

### 視覚支援を活用するポイント

- ・スタートを揃える：音声は消えてなくなってしまうものです。一つの事をやりながら次の指示をきくことが苦手な子どもは必ずいます。その音声に視覚的な支援をプラスすることで、みんなが一斉にスタートすることができるのです。
- ・テクノロジーの代替：音声で教師が必死に何かを伝えようとしている時、またそれが全員に伝わっているのかどうかがわからない時に、TVやプリントなどを活用して、先生が自由に動ける時間を作ること、子ども達の違った側面に触れる機会を設けることができます。